

News Release

2017年2月3日

昭和産業株式会社 平成29年3月期第3四半期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の平成29年3月期第3四半期連結決算は、売上高178,209百万円、経常利益8,867百万円となりました。平成29年3月期通期連結業績予想については、売上高245,000百万円、経常利益9,800百万円を見込んでおります。

【平成29年3月期第3四半期連結決算】

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、為替や株価の不安定な動き等により、個人消費や企業業績に足踏み状態がみられ、先行きにつきましては不透明な状況にあります。

食品業界においては、原材料価格の変動などによる製品価格の改定も発表されており、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、2012年（平成24年）よりスタートした「中期経営計画12-16」が最終年度に入り、6つの基本戦略「①基盤事業の持続的成長」「②新たな分野への挑戦」「③海外事業の強化」「④効率化の推進」「⑤グループ連携の強化」「⑥CSR経営の推進」の各種施策の推進に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き「①基盤事業の持続的成長」の基礎となる販売物量の拡大を推し進めるとともに、原材料価格等に見合った製品価格の適正化に努めてまいりました。

研究開発においては、社内各所に分散していた「研究」「開発」「技術」の活動拠点を一か所に集約した「R&Dセンター」（千葉県船橋市）を建設し、2016年（平成28年）9月1日より業務を開始いたしました。当社の強みである多様な穀物資源を生かした総合力をさらに強化するとともに、お客様とのコミュニケーションの場として、昭和産業グループならではの複合系シナジーソリューションをご提供してまいります。

また、当社100%子会社であるグランソールベーカリー株式会社が運営を行う、株式会社セブン-イレブン・ジャパン向けの「冷凍パン生地工場」を建設し、1月1日より稼動しております。

「④効率化の推進」においては、鹿島工場等生産部門を中心にローコストオペレーションを推進いたしました。

一方、発送費の増加等により販売費及び一般管理費が、前年同期に比べ634百万円増加いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は178,209百万円と前年同期に比べ10,388百万円（5.5%）の減収となりました。営業利益は8,141百万円と前年同期に比べ1,276百万円（18.6%）の増益、経常利益は8,867百万円と前年同期に比べ1,210百万円（15.8%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,668百万円と前年同期に比べ210百万円（3.9%）の増益となりました。

【平成29年3月期連結業績予想】

第4四半期以降も為替や穀物の相場動向など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、平成28年5月13日に公表した平成29年3月期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）の連結業績予想につきまして変更はありません。

以上

この件に関する報道関係の方々のお問い合わせ先
昭和産業株式会社 経営企画部
コーポレート・コミュニケーション室 担当：久田
〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
TEL：03-3257-2042
FAX：03-3257-2097